

僻地集落の自治的再編と地域生涯教育の可能性に関する研究

内田 和浩 [北海道教育大学生涯学習教育研究センター／助教授]

須田 康之 [北海道教育大学教育学部旭川校／助教授]

大坂 裕二 [市立名寄短期大学生活科学科／助教授]

背景・目的

本研究は、僻地集落における学校教育・社会教育を貫く連続的な地域生涯教育実践を地方分権下の新たな地域発展の視点から再評価し、そのような集落における生涯教育としてその構造と今後の自治的集落再編の展望を明らかにしていくことをめざしている。具体的な事例として取り上げたのは、北海道の最北にある利尻島の利尻富士町鬼脇地区と利尻町仙法志地区であり、各町の中心市街地とは離れたかつてはそれぞれ一つの自治体であった集落であり、地区内に僻地小規模校である小学校・中学校と町立の公民館が存在している地域である。

内容・方法

現在(平成16年7月末)までに行った調査は、①僻地学校教育実践の実態調査及び地域と学校に関わる歴史的事実的調査として、利尻町史、利尻富士町史の収集。鬼脇地区(利尻小・鬼脇中)及び仙法志地区(仙法志小・仙法志中)の各小中学校長への聞き取りと各開校100周年記念誌、50周年記念誌等の収集。②集落公民館活動と地域づくり活動に関わる実態調査及び歴史的事実的調査については、利尻町、利尻富士町各教育委員会への聞き取り、集落史や統計資料等の収集。利尻町立博物館及び利尻富士町立郷土資料館での歴史的資料の収集。仙法志地区にある利尻町立公民館と利尻富士町立鬼脇公民館での関係者への予備的聞き取り。元・鬼脇地区青年団員への一部聞き取り調査。③集落の地域発展と生涯教育に関わる集落悉皆意識調査に関しては、残念ながら関係者の協力体制を得ることはできているが、未実施となっている。

したがって、研究成果報告書は本研究における中間報告として整理した。

結果・成果

利尻島の平成15年12月現在の人口は、利尻富士町が3,229人、利尻町が2,929人の合計6,158人であるが、最盛期の昭和31年(1956年)の人口は、島全体では21,727人で現在の約3.5倍であった。明治・大正・昭和戦前・戦中・戦後を経て、利尻島は「鯨景気」によって人口が増加し続けていった。「昭和の大合併」では、昭和31年9月、現在の利尻町(仙法志村と杓形町)と利尻富士町(鴛泊村と鬼脇村、当初は東利尻村、その

後東利尻町、平成2年より利尻富士町)が誕生し、仙法志地区と鬼脇地区からは役場はなくなった。鬼脇地区には、利尻小学校があり、現在では生徒数38人、3.4年生と5.6年生が複式学級となっている。鬼脇中学校は、現在は13人。平成16年度には中学校では珍しい1.2年生の複式学級になる。合併直前の鬼脇村の人口は5,118人であったが、現在では1,008人と約5分の1まで減少している。鬼脇地区には、利尻富士町立鬼脇公民館と利尻島郷土資料館がある。仙法志地区の仙法志小学校は、現在生徒数29人、1.2年生、3.4年生、5.6年生の複式学級である。仙法志中学校は、現在19人であるが、近年の生徒数減少に危機感を強め、平成11年度(1999年)より「海浜体験留学生」を全国から募集し、3人の中学生が「里親留学」して仙法志中学校に通っている。合併直前の仙法志村の人口は3,403人であったが、現在では783人と約4分の1まで減少している。仙法志地区にも、利尻町立公民館と利尻町立博物館がある。また仙法志地区の出身者は、東京、札幌等でそれぞれ「東京仙法志会」「札幌仙法志会」を組織して、毎年定例会(総会)の開催、会報の発行、記念誌の発行等を行ない、故郷・仙法志との絆を保ち続けている。

これらの調査結果を仮説的に分析し、以下のように整理した。第1に、両集落とも、明治以前の交易の歴史と明治以降の「鯨景気」の中で、さまざまな人々が往来し、又はある時期定住し、「鯨景気」の終焉と産業構造の変貌の中で多くの人々が去っていった。そして、1小学校1中学校を有する集落を現在なんとか維持しようとしている。したがって、集落自治にとっての基礎単位を中学校区と位置づけて分析していく必要がある。第2に、両集落における学校は、地域組織との結びつきを積極的に求めており、逆に地域組織との結びつきなしに学校は地域に存在できない。さらに、地域の公民館・博物館とその活動が地域組織と学校を結びつけていた。したがって、集落自治の形成には地域生涯教育という視点での場(空間)と活動(時間)、そして関係づくり(仲間)が不可欠である。第3に、特に仙法志地区では、集落を離れ都会に住んでいる人々と集落が結びつきを維持するための組織活動が行われており、そのことが僻地における集落自治と集落における人々の学びに大きな影響を与えている。したがって、地域生涯教育は空間と時間を超えて展開していくと考えられる。

今後の展望

今後、予定していた集落悉皆調査をはじめ、残された調査研究を進めていきたい。さらに、現在進みつつある「平成の合併」においては、利尻富士町と利尻町の合併が準備されている。したがって、今後行う予定の調査は、利尻富士町と利尻町とが町村合併に至るプロセスに即して、住民の合意形成と合併自治体における集落自治と地域生涯教育の在り方への提言も含めて、アクションリサーチ的に行わなければならないと考えている。